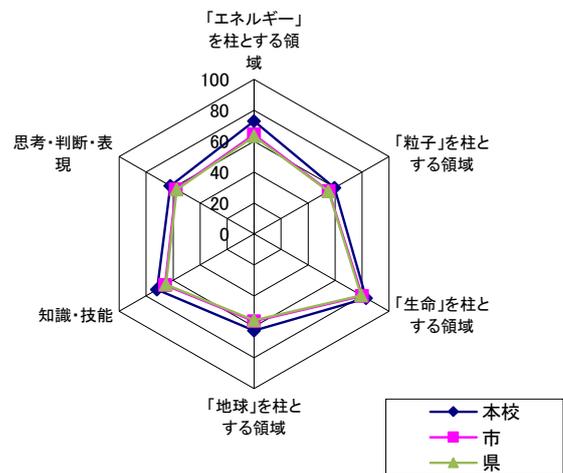


# 宇都宮市立錦小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	59.6	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	83.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	62.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	71.9	66.0	65.3
	思考・判断・表現	62.1	57.9	57.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県や市を上回った。</li> <li>○乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうちプロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ問題では、市よりも、12.5%上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電流の性質に関する事項は、どの問題も正答率は県より高かったものの、十分習得できていなかった。実験する時間を十分確保し、電流の性質が理解できるようにする。また、実験器具の使い方についても、身に付くように指導していく。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県や市を上回った。</li> <li>○水を冷やす実験について、提示された予想に沿った結果を示すグラフを選ぶ問題では、市より、14.3%上回った。</li> <li>●温められた空気の動き方を答える問題では、市よりも、7.2%下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●空気や水の性質については、基本的な知識は身につけているが、生活の場面と関連付けすることに課題がある。学習した知識を様々な場面で活かすことができるように、発問の工夫や様々な場面設定から考察できるように指導していく。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県や市を上回った。</li> <li>○オオカマキリとトノサマガエルの越冬について適切に比較してまとめた考察を選ぶ問題では、市よりも、5.3%上回った。</li> <li>●人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数に着目して差異を答える問題では、市よりも、3.9%下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●植物の観察やヒトの体の動きを観察するなど、できるだけ体験を伴う活動をこれからも取り入れていく。</li> <li>●筋肉の表面的な動きだけでなく、体の内部の動きなどを学習する際には、骨格模型やタブレット端末を活用して理解の定着を図る。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県や市を上回った。</li> <li>○実験結果から水たまりのできにくい地面を選び、その理由を答える問題では、市よりも、18.8%上回った。</li> <li>●一日の気温の変わり方を示したグラフを適切に読み取った内容の文章を選ぶ問題では、市よりも、17.1%下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●体験を伴う活動によって、知識を身に付けることができたと考えられる。しかし、実験結果から分かることを文章で表現する力は不十分である。結果から考察したことを表現する時間を十分に確保して定着を図る。</li> </ul>